

月報

平成 22年 1月
(第1 ~ 4週)

発行年月日: 平成22年(2010年) 2月26日
発行: 滋賀県衛生科学センター内
滋賀県感染症情報センター
電話 077-537-7438 FAX 077-537-5548

1) 全数報告の感染症(一類~五類)

全国の医療機関において、医師が感染症法で定められている一~四類および五類感染症に該当する患者を診断したとき医師は保健所に届出ことになっています。
このことを全数報告といいます。また、届出により全国または滋賀県で発生している感染症法で定められた一~四類および五類感染症を把握することができます。

感染症類型	疾病名	平成 22年		平成 21年 ^{*1}		感染症類型	疾病名	平成 22年		平成 21年 ^{*1}			
		1月		1~12月				1月		1~12月			
		滋賀県	全国	滋賀県	全国			滋賀県	全国	滋賀県	全国		
一類	エボラ出血熱	0	0	0	0	四類	ニパウイルス感染症	0	0	0	0		
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0		日本紅斑熱	0	1	0	129		
	痘そう	0	0	0	0		日本脳炎	0	0	0	3		
	南米出血熱	0	0	0	0		ハンタウイルス肺症候群	0	0	0	0		
	ペスト	0	0	0	0		Bウイルス病	0	0	0	0		
	マールブルグ病	0	0	0	0		鼻疽	0	0	0	0		
	ラッサ熱	0	0	0	0		ブルセラ症	0	0	0	2		
二類	急性灰白髄炎	0	0	0	0	五類	ベネズエラウマ脳炎	0	0	0	0		
	結核	18	1,345	256	26,932		ヘンドラウイルス感染症	0	0	0	0		
	ジフテリア	0	0	0	0		発しんチフス	0	0	0	0		
	重症急性呼吸器症候群	0	0	0	0		ボツリヌス症	0	0	0	0		
	鳥インフルエンザ(H5N1)	0	0	0	0		マラリア	0	6	0	56		
三類	コレラ	0	1	1	16	五類	野兎病	0	0	0	0		
	細菌性赤痢	0	16	0	180		ライム病	0	2	0	9		
	腸管出血性大腸菌感染症	0	88	27	3,886		リッサウイルス感染症	0	0	0	0		
	腸チフス	0	1	0	29		リフトバレー熱	0	0	0	0		
	バラチフス	0	0	0	27		類鼻疽	0	1	0	0		
四類	E型肝炎	0	2	1	56	五類	レジオネラ症	0	41	8	712		
	ウエストナイル熱	0	0	0	0		レプトスピラ症	0	0	0	16		
	A型肝炎	0	6	0	115		ロッキー山紅斑熱	0	0	0	0		
	エキノコックス症	0	1	0	26		アメーバ赤痢	1	60	10	783		
	黄熱	0	0	0	0		ウイルス性肝炎	0	4	3	220		
	オウム病	0	0	0	21		急性脳炎	0	26	8	526		
	オムスク出血熱	0	0	0	0		クリプトスボリジウム症	0	1	0	17		
五類	回帰熱	0	0	0	0		クロイツフェルト・ヤコブ病	0	7	2	141		
	キャサナル森林病	0	0	0	0		劇症型溶血性 レンサ球 菌感染症	0	13	2	105		
	Q熱	0	0	0	2		後天性免疫不全症候群	0	66	9	1,449		
	狂犬病	0	0	0	0		ジアルジア症	0	3	0	73		
	コクシジオイデス症	0	0	0	2		髄膜炎菌性髄膜炎	0	0	0	10		
	サル痘	0	0	0	0		先天性風疹症候群	0	0	0	2		
	腎症候性出血熱	0	0	0	0		梅毒	0	37	3	692		
五類	西部ウマ脳炎	0	0	0	0		破傷風	0	4	3	113		
	ダニ媒介脳炎	0	0	0	0		パンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0	0		
	炭疽	0	0	0	0		パンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	3	0	116		
	つぶが虫病	0	18	0	465		風しん	0	6	2	148		
	Dengue熱	0	3	0	93		麻しん	0	28	7	739		
	東部ウマ脳炎	0	0	0	0		新型インフルエンザ(H1N1) ^(*)	-	-	138	12,639		
	鳥インフルエンザ	0	0	0	0		(*) : 集計期間は平成21年7月24日~平成21年8月24日、- : 未集計						

*1 感染症発生動向調査事業年報暫定値(国立感染症研究所感染症情報センター)

滋賀県における全数報告感染症の概要 (1月)

<結核> 18名

性別: 男性 13名、女性 5名
類型: 患者 14名
無症状病原体保有者 4名
病型: 肺結核 12名
その他の結核 6名

<アメーバ赤痢> 男性 52歳

推定感染経路は不明で、推定感染地域は日本国内です。また、病型は腸管アメーバ症です。

2) 定点把握の対象となる五類感染症

感染症発生動向調査事業に係る報告のうち、滋賀県が指定した「指定届出機関」を定点医療機関(定点)といい、その定点から報告される感染症を定点把握対象感染症といいます。また、定点当たり患者数とは、一週間を単位として一ヵ所の定点から何人の患者が報告されているかを示したもので(患者報告数 / 定点医療機関数)。例えば、一つの疾患(インフルエンザ等)について、一週間に52ヵ所の定点から総数52人の報告があれば、定点当たり患者数は1.00となります(疾患により定点数は異なります)。

また、疾患によりインフルエンザ定点、小児科定点、眼科定点および基幹定点に分かれています。

1月の概要

<インフルエンザ>

第1～4週(1/4～1/31)の定点当たり患者数は、毎週、前週より大幅に減少し、第4週の定点当たり患者数は4.87となりました。昨年の第43週(10/19～10/25)に発令されたインフルエンザ警報は、第3週(1/18～1/24)に、13週ぶりに解除されました。また、第2週(1/11～1/17)に受け付けた咽頭ぬぐい液から、今冬初めての「B型インフルエンザウイルス」が検出されました。

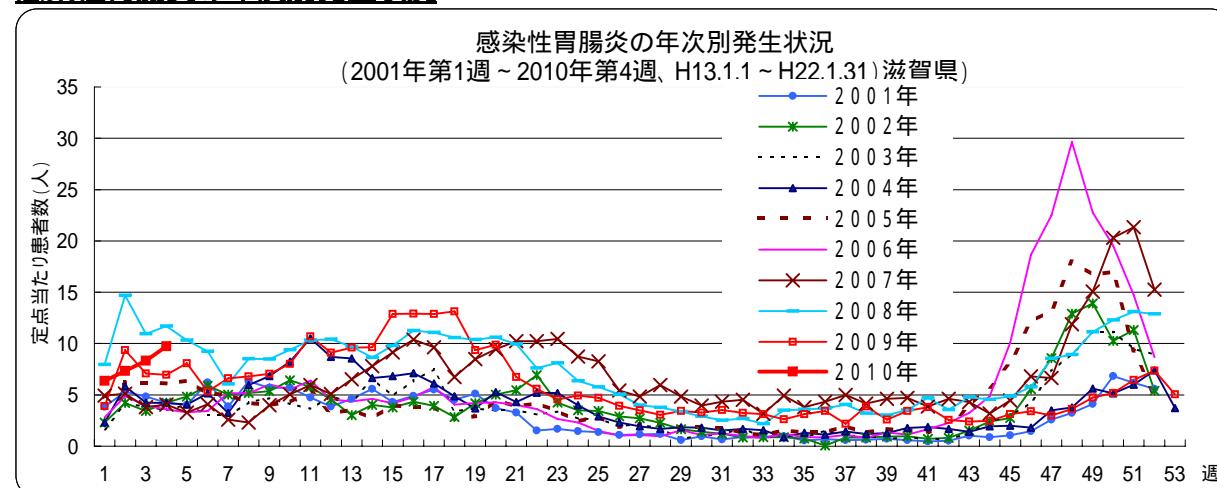
<小児科定点疾患>

先月より増加した疾患は、RSウイルス感染症、A群溶レン菌咽頭炎、感染性胃腸炎等で、減少した疾患は、水痘、手足口病等です(他の疾患については、疾病別定点当たり患者数のグラフ参照)。特に、RSウイルス感染症は先月に引き続き急増し、第3週以降は、東近江で急増していました。また、感染性胃腸炎も先月よりさらに増加し、昨年同時期よりかなり多くなり、過去10年間では2008年に次いで2番目に多くなっていました。保健所管内別では、長浜および高島で増加傾向を示していました。

<眼科定点疾患> <基幹定点疾患>

眼科定点疾患である流行性角結膜炎は先月とほぼ横ばいで、急性出血性結膜炎の報告はありませんでした。また、基幹定点疾患では、無菌性髄膜炎およびクラミジア肺炎は東近江から報告がありました。マイコプラズマ肺炎は、大津市および甲賀からの報告がやや多くなっていました。細菌性髄膜炎の報告は、ありませんでした。

感染性胃腸炎の年次別発生状況



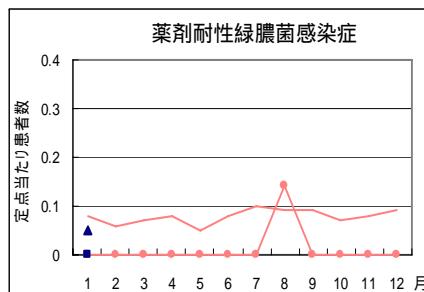
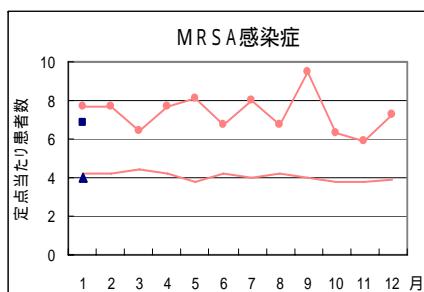
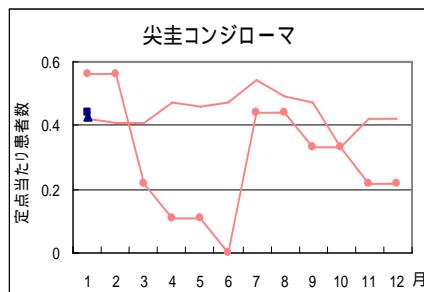
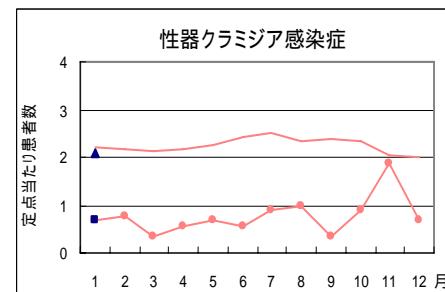
<各定点の対象疾患>

定 点	疾 患 名
インフルエンザ定点	インフルエンザ
小児科定点	RSウイルス感染症、咽頭結膜熱 A群溶レン菌咽頭炎、水痘 感染性胃腸炎、手足口病 伝染性紅斑(リンゴ病)、百日咳 突発性発しん、ヘルパンギーナ 流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)
眼科定点	急性出血性結膜炎 流行性角結膜炎
基幹定点	細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎 マイコプラズマ肺炎 クラミジア肺炎(オウム病を除く)

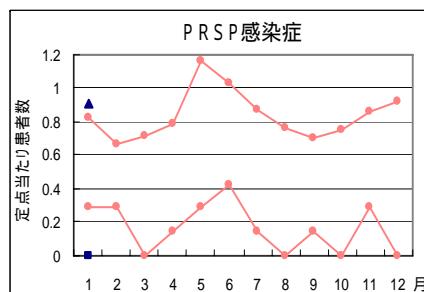
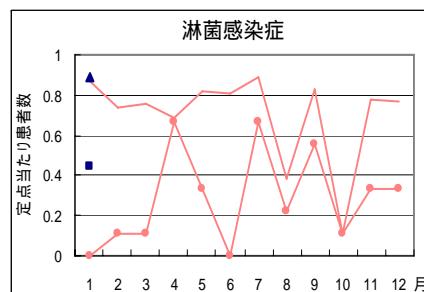
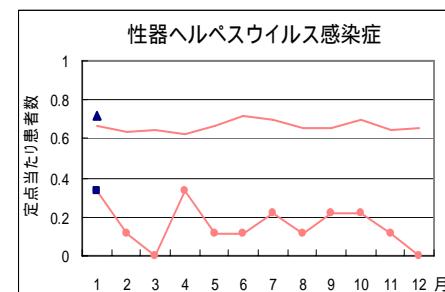
全国集計などの詳細な集計結果は、国立感染症研究所感染症情報センターのホームページ(<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>)において公表されています。

3)性感染症定点および基幹定点における疾病別発生状況(平成22年1月)

疾患名	区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
性器クラミジア感染症	罹患者数	6												6
	定点当たり	0.67												0.67
性器ヘルペスウイルス感染症	罹患者数	3												3
	定点当たり	0.33												0.33
尖圭コンジローマ	罹患者数	4												4
	定点当たり	0.44												0.44
淋菌感染症	罹患者数	4												4
	定点当たり	0.44												0.44
メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症	罹患者数	48												48
	定点当たり	6.86												6.86
ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症	罹患者数	0												0
	定点当たり	0												0
薬剤耐性綠膿菌感染症	罹患者数	0												0
	定点当たり	0												0



* 平成21年1月のデータは、全国、滋賀として表示しています。



H21 [滋賀] ● [全国] ---
H22 [滋賀] ■ [全国]

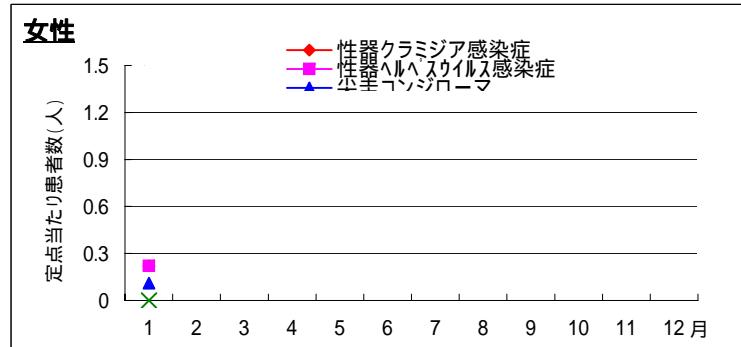
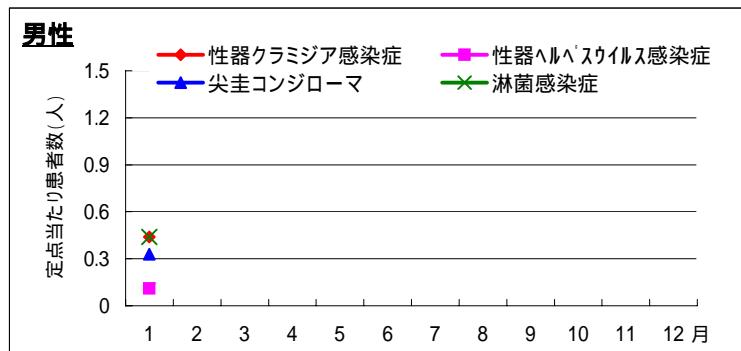
MRSA: メチシリン耐性黄色ブドウ球菌

PRSP: ペニシリン耐性肺炎球菌

性感染症定点および基幹定点における疾病別発生状況を前年同時期と比較すると、性器クラミジア感染症および性器ヘルペスウイルス感染症はほぼ同様で、尖圭コンジローマおよびMRSA感染症はやや減少しています。淋菌感染症はかなり増加しています。また、PRSP感染症および薬剤耐性綠膿菌感染症は報告されていません。

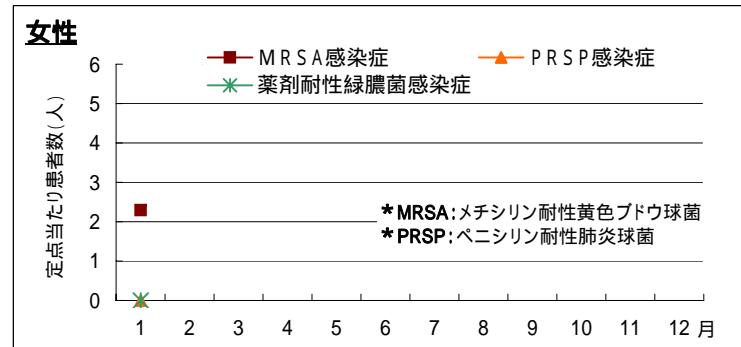
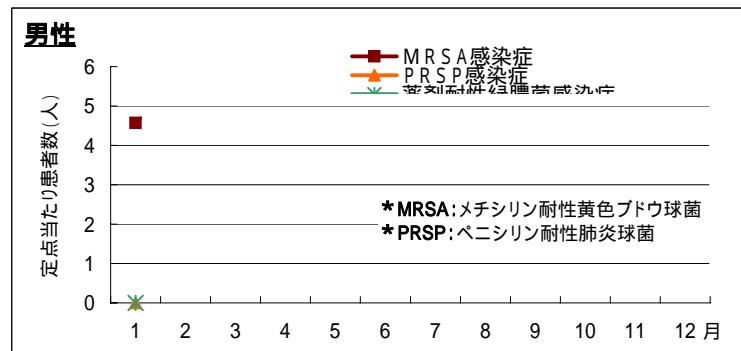
性感染症定査における疾患別発生状況

(H22.1)



基幹定点における疾患別発生状況

(H22.1)



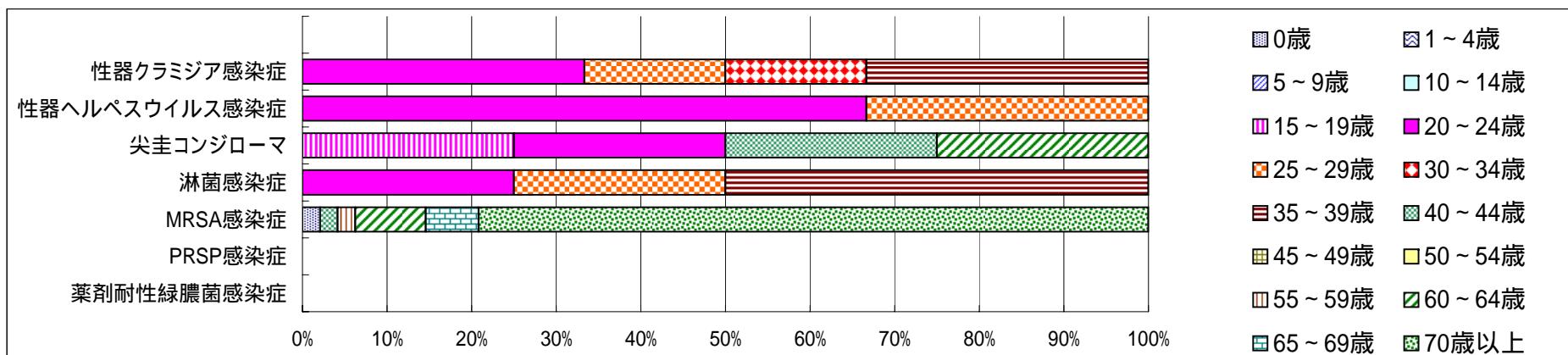
性感染症定点および基幹定点における各疾患の月別・性別発生状況は、左記グラフに示すとあります。

性器クラミジア感染症、尖圭コンジローマ、淋菌感染症およびMRSA感染症では、男性でやや多く発生しています。

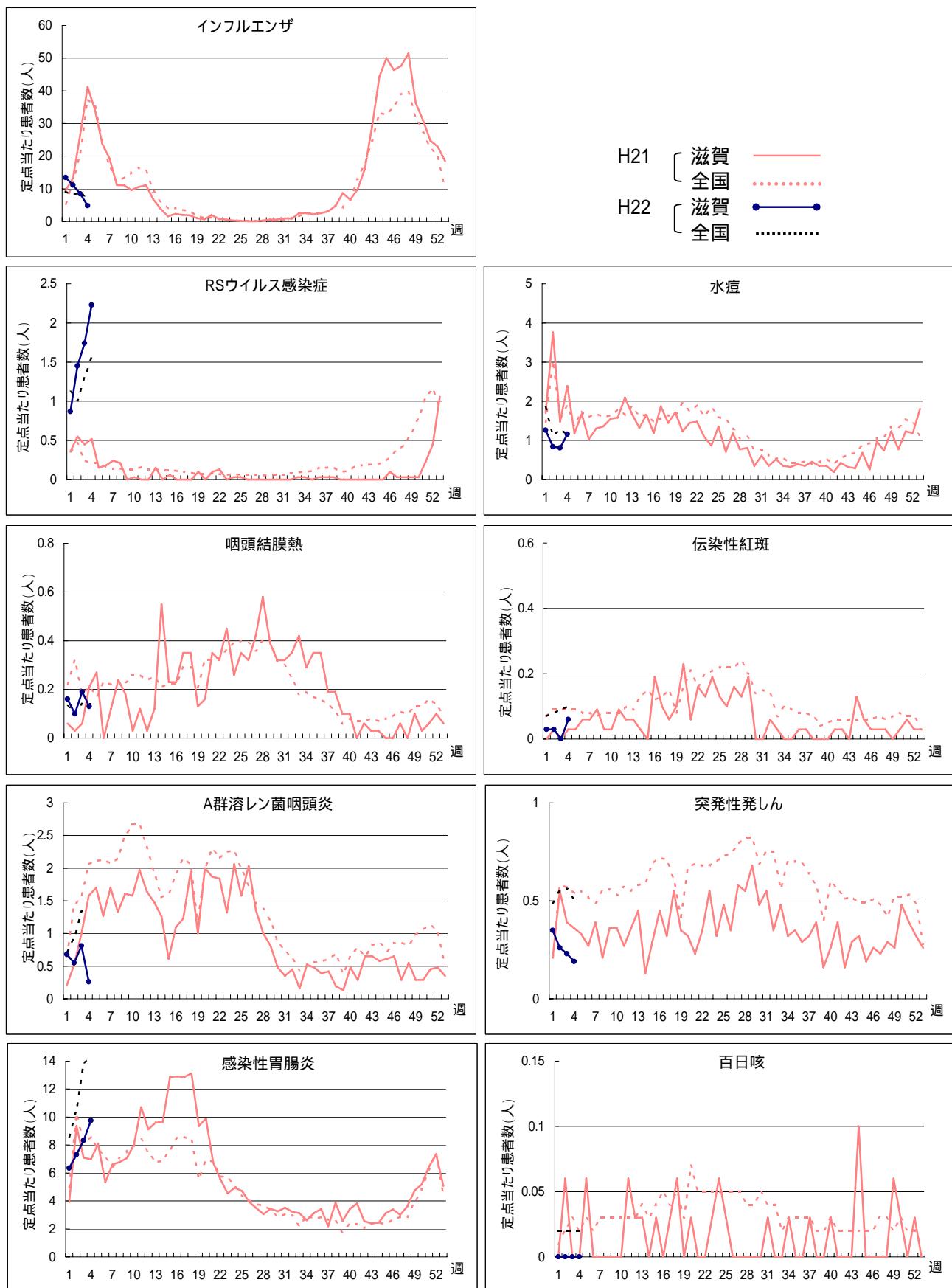
また、各疾患の年齢別
発生状況は下記のグラフ
のとおりです。

男性の35～39歳では、性器クラミジア感染症および淋菌感染症の報告がやや多くなっています。女性の15～19歳では、尖圭コンジローマが報告されています。

疾患別・年齢別発生状況(H22.1)

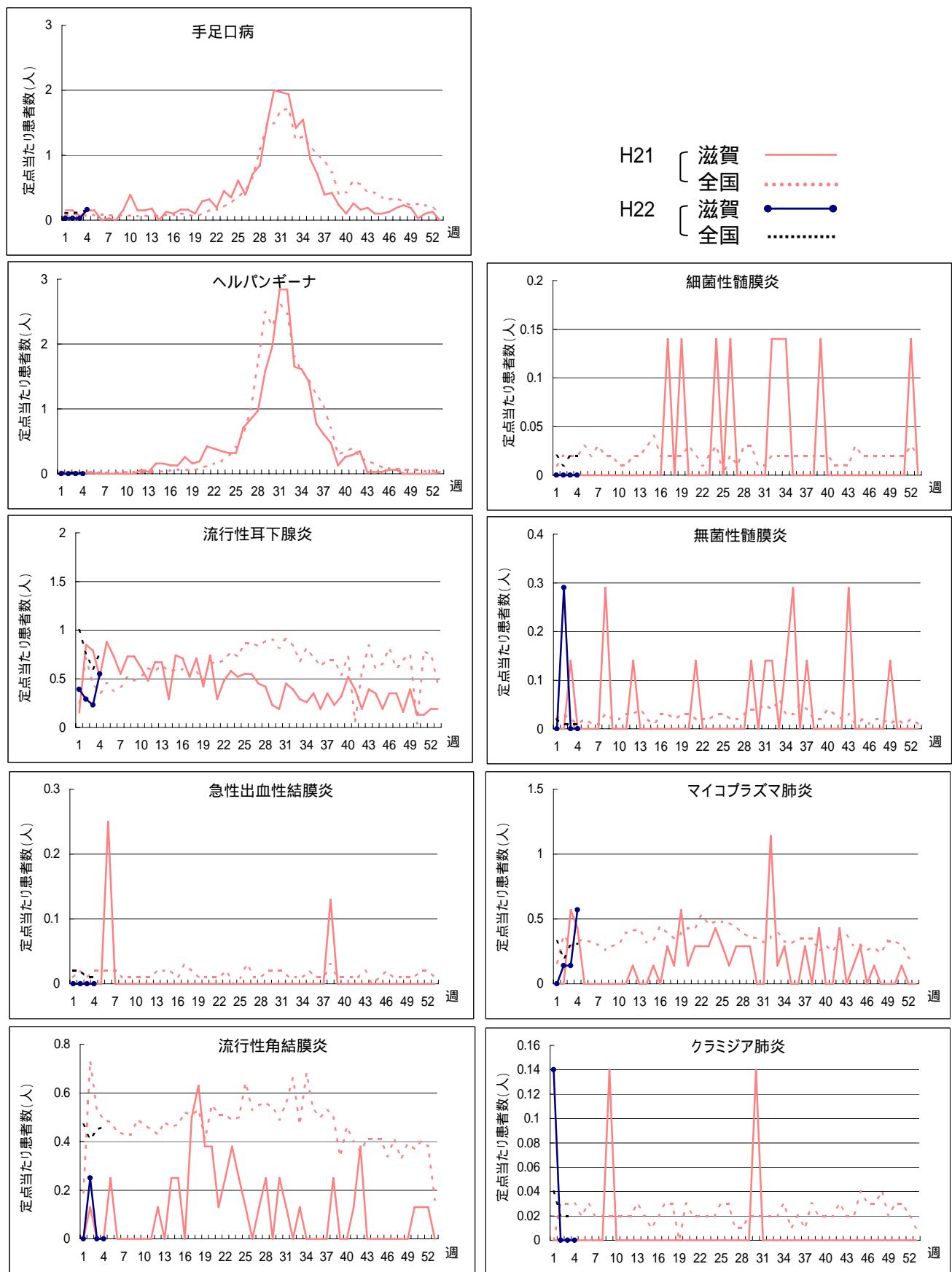


疾病別定点当たり患者数(平成22年第1～4週、H22.1.4～H22.1.31)



戻る

疾病別定点当たり患者数(平成22年第1~4週、H22.1.4~H22.1.31)



戻る